

日本における WCA 大会運用方針

Ver1.0
2024/8/25

WCA Regional Delegate	大村周平
WCA Delegate	濱田祐一
WCA Delegate	宮崎隆太郎
WCA regulation committee, Trainee Delegate	吳翰
WCA Trainee Delegate	幸地大輔
一般社団法人スピードキュービングジャパン	

1 この方針の位置づけ

この方針は、日本地域の WCA 代理人 (以下、Delegate と呼ぶ) および WCA 地域団体 (WCA Regional Organization, 以下 RO と呼ぶ。日本では一般社団法人スピードキュービングジャパンが相当する) の協議の結果として、日本における WCA 大会の発展のために定める方針である。

この方針の理解を助ける代表的な WCA の文書を以下に示す。

さらなる理解のために、本稿にとどまらず WCA 原典も併せて確認すると良い。

- Vision and Strategy (WCA のビジョンと戦略)
https://documents.worldcubeassociation.org/documents/WCA_Vision_and_Strategy.pdf
- Code of Conduct (行動規範)
<https://documents.worldcubeassociation.org/documents/Code%20of%20Conduct.pdf>
- Code of Ethics (倫理規定)
<https://documents.worldcubeassociation.org/documents/Code%20of%20Ethics.pdf>
- Competition Requirement Policy (大会要件ポリシー)
<https://documents.worldcubeassociation.org/documents/policies/external/Competition%20Requirements.pdf>
- Delegate Handbook (Delegate ハンドブック)
<https://documents.worldcubeassociation.org/edudoc/delegate-handbook/delegate-handbook.pdf>

2 運用体制

個々の WCA 大会は、担当する Delegate が総指揮を取る。(関連規定：[WCA 大会規則 1c](#)) RO は、日本における法人格を持つ統括団体として、スケジュール調整、公式タイマーなど備品の貸出、議論のファシリテーションなどの事務的な支援を行う。

Delegate と RO は長期的な視点から WCA 大会の開催時期を含む企画骨子の概要を決める。そして Delegate と RO はその企画骨子に沿った個々の WCA 大会の実装のため、担当する実行委員会を任命し実作業を委託する。

実行委員会は、大会企画運営に関する事項を Delegate と RO に共有しながら作業を行う。

Delegate や RO 自身が実行委員会を構成することもある。

3 現状の課題認識と対応方針

3.1 課題 1. 競技人口の増加に伴うイベント参加需給の不均衡

スピードキュービング人口は拡大の一途を辿っている。

イベント参加定員を超える申込みが殺到し、参加できない人が生まれている状況を改善する。

対応方針

- WCA が持つ需給バランス調整手段の積極的採用
複数大会のシリーズ大会化や、初心者参加枠の設定など、参加者を多く受け入れるために WCA が認める大会需給の調整手段を積極的に活用する。
- 競技種目・ラウンド数・参加基準タイムの基準設定
限りある参加機会をできるだけ多くの人に楽しんでもらえるよう、開催種目とラウンド数の設定では、上位者選抜の複数ラウンド設定よりも希望者の多くが参加できる 1 ラウンドの複数種目設定を優先する。カットオフや制限時間などの参加基準タイムは、過度に厳しい水準とならないようコントロールする。
- 参加費へのダイナミックプライシング導入検討
参加希望者の過去の参加経験や、参加申込時期ごとに異なる参加費設定などを一例とするダイナミックプライシング導入を検討する。限られた参加枠がより参加意欲の強い参加者に配分されることを促す。

- 参加者ターゲットへの適切な選択肢提示
日本におけるスピードキュービングイベントの種類には、WCA大会のほか、SCJ大会、SCJ記録認定会、その他交流会などの選択肢がある。各地域における参加者ニーズを精査し、参加者ひとりひとりがそれぞれの特徴を理解したうえで主体的に選択できるように Delegate と RO は広報活動を行う。

3.2 課題2. 開催中止につながるアクシデントのリスク

近年では、WCA大会のために来日する海外参加者や、国内の長距離移動を厭わない参加者も珍しくない。開催予定のWCA大会が中止となってしまうと影響範囲が広いため、ひとつの事故で大会中止やWCA記録の不認定に至らないよう、多重の安全策を講じる。

対応方針

- Delegate の複数人担当
Delegate は単独で大会を監督せず、できるかぎり複数人で監督する。Delegate 不在によるWCA記録が認定できないリスクを低減する。
- Delegate 招聘の標準経費設定
既存 Delegate の退任抑制や、新たに Delegate となる人材創出のため、WCAの定める非営利活動の範疇において適切な経費設定を行う。
- 実行委員会の能力確認
実行委員会にイベントを取り仕切るために必要な社会人水準の能力があることを Delegate と RO が確認する。
- 遅延リスクを考慮した当日タイムテーブルの設定
当日の進行が遅延しても予定されていた競技をすべて完了できるよう、タイムテーブルには余裕をもたせる。会場予約を終日確保するなどの対策を講じる。

3.3 課題3. 長期的視点の軽視

個々の大会ごとの充実に注力しすぎることなく、企画間の連携をとりながら長期的な発展を促すために以下の方針を設定する。

- 大会開催スケジュールの設定
Delegate と RO は、中長期的な WCA 大会開催の時期・頻度を見積もるスケジュールを策定し、事前に公表する。
- ノウハウの形式知化
大会ごとに企画書と終了後のレポートなどの資料を作成し、RO が保管する。それぞれの企画実行から得た経験をまとめ、形式知として保管する。
- ノウハウの共有・発表の機会提供
企画を終えた実行委員と、以降の候補者とのコミュニケーションの場を設ける。互いの手法を共有し高め合う機会を設定し、Delegate と RO はそのファシリテーションを行う。
- 当日の余裕をもったタイムテーブル
運営関係者の持続的なモチベーション維持や、運営関係者の家族などからの応援を促すため、当日の拘束時間が長くなりすぎないようにする。昼休みなどの休憩時間の十分な設定や、夕方でのイベント解散が基本となる。競技終了後の撤収や、締め作業を行っても十分に時間的余裕がある当日タイムテーブルとする。
- 過度な無償奉仕文化の抑制
WCA 大会は非営利の活動として定められている。ここで非営利活動とは、利益や資産を他の構成員に分配しないことを意味する。健全な運営体制確立のために、一般常識に鑑みて妥当な経費と考えられる範囲での適切な関係者人件費の設定や、余剰金を次回以降の開催のために個人や団体が蓄積することは当然許容される。

3.4 課題 4. 若年層への配慮

スピードキュービング文化の構成員のうち、未成年とくに 10 代以下の年少者の割合は年々拡大している。社会的に保護されるべき段階である未成年に対する成長の機会と、彼らを保護する仕組みをセットで提供する。

対応方針

- 保護者によるジャッジなどスタッフの代任
WCA 大会規則では、参加者自身が他者の競技のスタッフも兼任することを定めている。このため、責任能力のない若年者がスタッフを担当することでトラブルが起きる懸念

がある。本人に十分な責任能力がない場合は、保護者による代任を推奨する。

- 倫理規定・行動規範の徹底

WCA 倫理規定や行動規範に明示されているように、WCA 大会は単にスピードキュービングの実力競争を煽るのではなく、その社会的意義や友好的なコミュニケーションの文化を醸成することを重視している。不適切な言動には、適当な注意やペナルティを与えることも辞さずに対応する。

- 保護者へのメッセージ発信

前項に挙げた Delegate の複数人体制や、ダイナミックプライシングの設定から、WCA 大会の参加費はあっそう増額することが予想される。

一方で、競技人口の多くを占める未成年は自身の裁量による可処分所得が少ない。このため、スポンサーとなる保護者が WCA 大会への教育的投資価値に納得してもらえるような健全な文化醸成に努めていく。